

＜ CSWと民生委員を招いて意見を聞く ＞

出席：樋口敬子（CSW） 戸板博子（民生委員）

中野 岩崎 松瀬 横山 瀬戸 久保田 露木 山崎

樋口：（アンケート内容の説明を受けて）成熟した自治会ならではの調査で私自身、一部を具体化されて素晴らしいです。

- ・アドバイスをお願いしたい。自治会独自では限りがあり外部と連携していくことが必須
- 戸板：独居高齢者のリストや子ども同居のリストはあるが、見守りにどこまで入っている。睦の中にも「子どもと同居している」ので民生委員と関わらない方がいる。昼間は独
- ・睦に何人ぐらい？把握しているか。

戸板：40歳代の子どもの「引きこもり」がある。昔は引きこもりを隠していたが、今、しかしこのようなケースは要支援者には当たらない。

樋口：引きこもりに対して、基本的にはしかたないが、地域との関わりを密にしていく。困っている方が困っているときに関われることが大事。

- ・そういうことで困っている方が声を上げているとき相談できる体制づくりが大切。

樋口：アンケートでボランティアを引き受ける声がこれだけ上がるのは珍しい。おばさん、おじさんの方が高い。「平なおじさん力」を発揮している。しかし力があるのに、内容がオーソドックスでもったいない。ワークショップなどを開いたら。滝中や大庭、一環として、このような状況で何ができるか、討議している。

- ・ワークショップできればやっていきたい。
- ・オーソドックスではあるが「見守り隊」などをやっていくことと、樋口さんや戸板さん、追及していきたい。
- ・自治会に「人の輪」を大切に、訪問できる状況を作りながら動きを作っていく。

樋口：動きの中から見守りできる環境づくりができていく。

戸板：民生委員会で報告を受ける中で睦の活動をいつも誇りに思う。家に入るときは「ちゃん」として接するよう努力している。

- ・要支援世帯を含め20軒を意識して外から見守りを行っている。中に入って話せる状況にしていきたい。

戸板：近所付き合いをしていきながら見守っていくことが大切に思う。

樋口：私たちも見守りに関わっていければ、睦と民生委員・CSWの連携が生まれる。

- ・自治会の人々をどう自立させていくかがカギだ。

樋口：そこが難しく困っている。

- ・移動介護をした時ゴミ出しを拒否された。部屋の中はめちゃくちゃだったのですが。

樋口：このアンケートからお互いさま観がみられる。

滝中の卒業生がアンケートの回覧版を見て現実問題としてどうとらえるだろうか。

- ・ここ数年防災関連で関わり合いができてきたが、ただ此処へきて皆高齢になって難しい。

戸板：睦は信頼関係ができてから大丈夫だと思う。

- ・「人の輪」が広がっていく中、常に何かを提起していくことが必要と考える。

樋口：CSWと包括センターが関わりを持っていくことが大切。

- ・我々が困っているとき直ぐに民生委員さらにはCSWや包括支援センターに相談でき、大切で、そういう関わり方を作り上げたい。

戸板：8/23に民生委員との関わりでヤマト運輸、銀行、郵便局の方から認知症の人、見守りに関わっている様子が報告された。こういう地域全体で見守りするシステムは、

- ・新聞配達も関わっている。

樋口：包括支援センターや民生委員、ヤマト運輸と郵便局などで睦で話が出来れば良い。

- ・デイサービスは男はほとんど利用しない。男は「救急車を呼ばない」と言い張って危険。デイサービスは「チーチーパッパ」をやっているところと思っている。だから利用しない。

・『face to face』で顔を直接見ながら見守りの運動をしていきたい。早くしていきたい。

戸板：男の人はきちっとやっていくのではなくゆるくやっていけば、ボランティア活動めることが大切に思う。

次回「考える会」 9/21（土） 9：00～

プロジェクトチームで「お助け隊」「見守り隊」の検討 9/3（火） 15：0

8 / 24 (土)

は親は認める。

とで引きこもっ

んが提起した事

うちに組織化して実行